

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析及び活用について

学校名	伊勢原市立大山小学校
-----	------------

1 調査結果の分析及び考察

	特長	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。 ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。 ・物語の登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うこと。 ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ・物語に登場する人物の人物像を具体的に想像すること。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる。 ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。 ・球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。 ・角柱の底面や側面に着目し、角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること。 ・除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解すること。
質問調査	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている。 ・先生は自分のよいところを認めてくれていると思っている。 ・人が困っているときには進んで助けてあげたいと思っている。 ・人の役にたつ人間になりたいと思っている。 ・国語、算数の勉強は大切だと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日同じくらいの時刻に寝ること。 ・将来の夢や目標をもつこと。 ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりすること。

2① 授業の充実に向けた重点的な取組

<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該学年の漢字を文章の中で適切に使うことができるように、漢字の意味や成り立ちに興味をもてるような授業を行っていく。さらに、場面に応じて適切な漢字を用いることができるような学習計画をたてる。 ・発表や話し合いの場面で相手に伝わるような話し方の工夫を考えることができるように、図や表などの資料を用いて説明するよさを理解し、工夫する学習活動を設けていく。 ・登場人物の人物像を具体的に想像することができるように、低学年から叙述を基に読み取ることを系統的に指導していく。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフについての基本的な知識・技能の定着を図っていく。 ・角柱の性質や構成の仕方について、立体模型を使い底面や側面についての理解の定着を図っていく。 ・商の大きさについての理解を深め、除数と商の大きさの関係を捉えることができるような学習計画をたてていく。

2② 家庭(地域)への発信内容(協力依頼事項)

※家庭で取り組んでほしい内容や地域の方にとってほしい内容

<p>日頃より学校教育へのご支援、ご協力ありがとうございます。</p> <p>1. 地域とのつながりを大切に 大山小の児童は、「(土日などに)地域の活動に参加している」と答えた児童の割合が平均を大きく上回っていました。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」に対しても肯定的回答の割合が高く、さらに「人の役に立つ人間になりたいと思う」「人が困っているときは、進んで助けている」の質問に対しても同様でした。積極的に地域とつながり、様々な活動をすることで、社会参画の意識や相互扶助の精神等が培われていることがわかります。これからの社会の中で子どもたちが幸せな人生を送るためには、地域と家庭と学校が一緒になって子どもたちを見守り育てていくことが大切です。学校でも、人との関わりを大切にできる心が育まれるような授業や活動を進めていきますので、ご家庭でも引き続き、地域の方々への挨拶や感謝、地域行事への参加などを促していただきたいと思います。</p> <p>2. 多様な意見に触れる機会を 学習場面では、子どもたちは、勉強は大切だと考え、授業で学んだことを実生活に結びつけて考えたり生かしたりすることができると思っています。一方、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりできていると考える児童が若干少ないようです。今後は、他学年と合同授業を行って多様な考え方に触れたり、オンラインも含めた他校交流を増やしたりして他者との差異を学びにつなげていきたいと考えています。</p>
